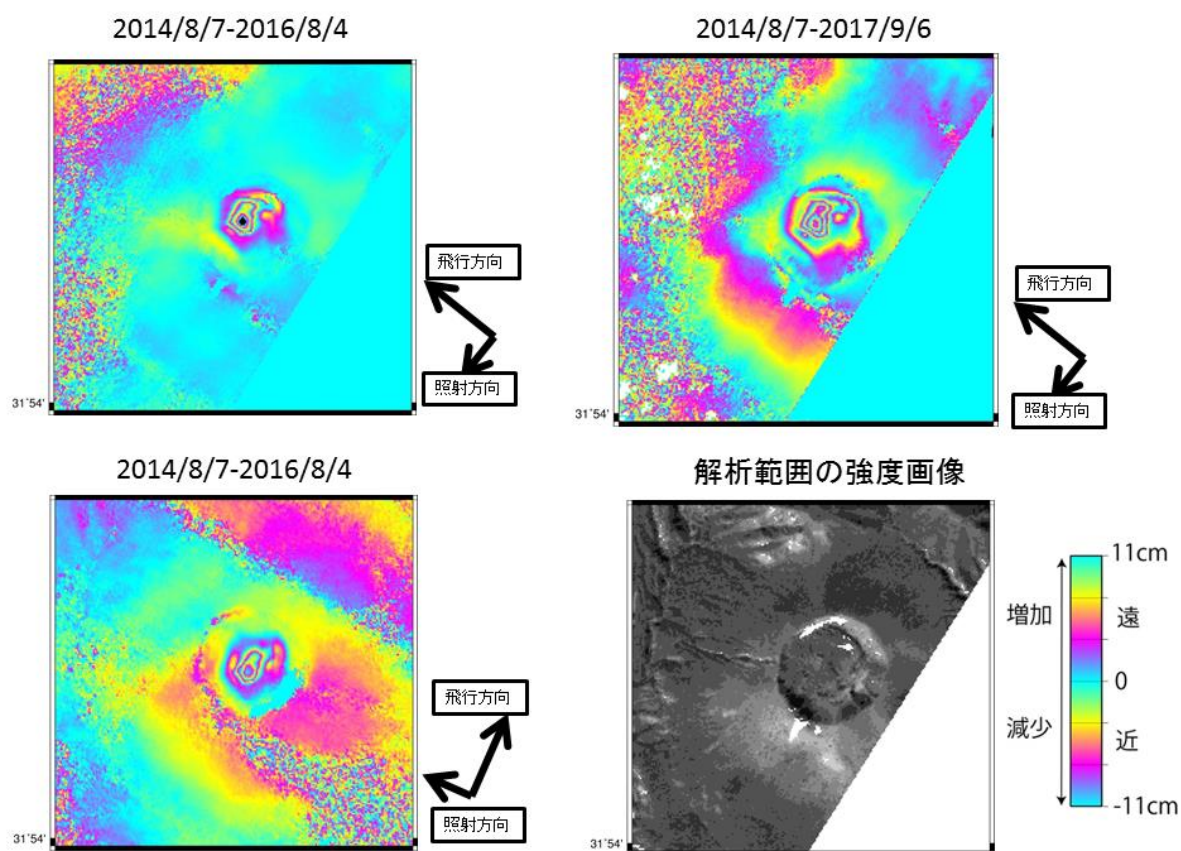


新燃岳

JAXA が保有する航空機 SAR (pisar-12) が観測した 2014-2017 間のデータを用いて干渉解析結果を実施した。2011 年噴火時に火口内に形成された溶岩湖の膨張・収縮以外に、数cm 程度と考えられる誤差を超える顕著な変動は見られなかった。



新燃岳周辺の干渉解析結果（暫定）。

謝辞：この解析に使用した 2017 年の pisar-12 データは、「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画の推進について」に基づく研究として取得した。2017 以外のデータは、宇宙航空研究開発機構（JAXA）から提供された。原データの著作権は、それぞれのデータ取得者が有する。干渉解析には、小澤拓 博士が開発した RINC および国土地理院の 10m 標高を使用した。